

2017年4月3日発行

プレスリリース

TOKYO MX
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社

関係各位

2017年度 入社式あいさつ

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（TOKYO MX）では、

4名（男性4名）の新入社員が入社しました。

本日の「2017年度入社式」で

後藤会長、河内社長が新入社員に向けて

それぞれ次のように挨拶しました。

本件に関するお問い合わせ
TOKYO MX 総務局総務部

2017年4月3日 入社式 会長・社長あいさつ

【挨拶】後藤 亘 代表取締役会長

『変化することは進化すること』

ようこそ、TOKYO MX へ来ていただきました、ありがとう。諸君を迎えて、当社が今後どうなっていくかを想像するのが大変楽しく、皆さんの顔を見ていて、10年20年先、当社の大きなリーダーシップを取ってくれる4人になるのではないかと期待しています。是非将来に向かって頑張ってくださいと思います。

入社に当たって、私の体験から3つ申し上げます。

まず一番目は、最初の10年間で、一つの大きな勝負だということ。最初の10年間フワフワやっていると、そのような人に見られてしまう。最初の10年間で、社内における自分の信頼性・価値観を築く非常に重要な期間です。10年間必死になってやった結果は、30年後に必ずや大きな自分の力になると考えます。これから10年間、本気で必死になって戦ってほしい。

二番目は、テレビ放送は様々な課題を抱え、大きな変化の時期を迎えています。基本はコンテンツビジネスでありジャーナリズムである立ち位置ということを考えると、皆さんに「好奇心」と「行動力」がないと、成長できないということです。好奇心と行動力を大事に、胸におさめて頑張ってくださいと思います。

三番目は、堂々とした「勇気」を持つことです。組織の中に入っていくと色々な人の顔色を見たり、上司の顔色を見たり、周りを見たりしがちであり、勇気がないと自分を犠牲にしてしまう場合があります。堂々とした勇気を持つことが、自分の人生を創ると思います。当社は自由な発言・行動が出来る企業だと思うので、堂々と勇気を持って発言し、行動して欲しいと思います。

皆さんが、「好奇心」と「行動力」がある人間であれば、それはひいてはTOKYO MXが発展する基盤になるわけですから、皆さんの活躍に大いに期待しています。

最後になりますが、激変する時代を迎えているテレビ業界の中で、それに耐えていくには、一言で申し上げると「変化」イコール「進化」になることだと確信し、「変化することはダメなことじゃなく進化することだ」と自分に言い聞かせていけば、進化に向かってアイデアと行動力が芽生えてくる。そういった考え方を持って、人生に、仕事に立ち向かってほしい、これが入社に当たってのお願いです。これから宜しくお願いします。

【挨拶】河内 功 代表取締役社長

皆さん入社おめでとうございます。ただ今、後藤会長からお話がありました通り、「変化は進化である」と考えると、それだけで希望が出てきて心が明るくなると、私自身も感じました。皆さんもよく研究していると思いますが、現下の環境変化に如何に的確に対応していくかが当社の課題であります。これまで60年間、右上がりできた放送業界は、ここに来て大きな転換点を迎えています。

これからが、放送事業の成否がかかる極めて重要な時期であります。

皆さんは1993年・1994年生まれで、くしくも当社創業の時と同じであり、大変感慨深いものがあります。皆さんと共にTOKYO MXを「視聴者から、ステイクホルダーから、そして社会から信頼される存在価値のあるテレビ局」にしていきたいと思っています。それが当社のゴールであります。

この記念すべき日に、約100年前にドイツで生まれたユダヤ人で、米国に渡って実業家として成功した詩人のサミュエル・ウルマンの詩の一篇を捧げます。

年を重ねただけでは人は老いない。
理想を失ったとき初めて老いる。

青春とは人生のある期間を言うのではなく、
心の持ち方を言う。

薔薇(ばら)の面差し(おもざし)、紅(くれない)の唇、しなやかな手足ではなく、
たくましい意志、ゆたかな想像力、炎(も)える情熱をさす。

青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは臆病さを退ける勇氣、

安きにつく気持ちを振り捨てる冒険心を意味する。

ときに、二十歳の青春よりも六十歳の人に青春がある。

年を重ねただけで人は老いない。

理想を失うとき初めて老いる。

六十歳であろうと十六歳であろうと人の胸には、

驚異(きょうい)に魅(ひ)かれる心、おさな児(ご)のような未知への探求心、
人生への興味の歓喜がある。

人から神から美・希望・よろこび・勇氣・力の

靈感を受ける限り君は若い。

靈感が衰え、精神が皮肉の雪におおわれ、

悲観の氷にとざされるとき、

二十歳であろうと人は老いる。

頭(こうべ)を高く上げ希望の波をとらえる限り、

八十歳であろうと人は青春にして已(や)む。

先ほど、後藤会長が簡潔に仰っていました言葉の中に、共通するものが感じられるのではないかと思います。
皆さんの健闘を期待しています。